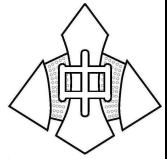


手をたずさえて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年10月29日(金)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

たくさんの光り輝く姿…多彩な発表がありました!

昨年度は、合唱コンクールに絞っての規模を縮小した文化祭でしたが、今年度は、吹奏楽部や有志発表などの様々なプログラムが準備されました。その中で、生徒達の光り輝く姿が随所に見ることができました。



■ 開祭式では、苦悩するチアダンを応援団が救うという設定で、実行委員長の伊藤君が開祭宣言を行いました。応援団の演舞が勢いを与えてくれました。また、3年生の応援団メンバーは閉祭式の後も再登場し、最後の演舞を披露してくれました。声を枯らしながら精一杯のエールを送る団長蓮田君の姿がとても印象的でした。3年生の応援団員に心から感謝ます。ご苦労さまでした。



■ 午後の部は、吹奏楽部の発表で幕をあげました。ジブリの映画音楽を手作り感いっぱいのトトロを中心とした劇仕立てで演奏しました。3年の先生方の友情出演もありました。オリンピック閉会式に登場した東京スカパライズオーケストラの曲ではノリノリの演奏を披露し、会場のボルテージも一気に上がりました。昨年度は叶わなかった演奏ができた満足感が生徒達から伝わってきました。



文化祭実行委員会等の生徒たち

- 【生徒会役員】**
 実行委員長：伊藤 太朗(3-1)
 伊藤 由衣(3-1)、古川 明花(3-3)
 橋井 はるか(3-3)、佐々木 悠人(3-3)
 凌り くな(2-1)、吉田 里桜(2-2)
 大原 寧々(2-3)、佐藤 善生(2-3)

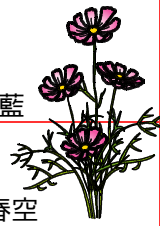


開祭宣言パフォーマンス

■ 昨年度実施されなかった有志発表では多彩なパフォーマンスが繰り広げられました。フラダンス、ウクレレ演奏、ダンス、ピアノ連弾と映像のコラボ、ヲタ芸など、次々と繰り出される出し物に驚きや感心の連続でした。

【各クラス委員】

- 3-1 菅野 優 上野 彩美
 3-2 味戸 耀星 北村 あかり
 3-3 木幡 叶夢 蓮田 翔空
 2-1 秋山 悠仁 酒井 美緑
 2-2 大堀 夏音 西牧 陽菜
 2-3 下重心 杜 佐藤 愛華
 2-4 鈴木 実来 円谷 菜鈴
 1-1 塩田 健造 小室 碧
 1-2 工藤 悠飛 高原 玲奈
 1-3 佐々木 優花 柄澤 優藍



【3年応援団員】

- 団長：蓮田 翔空(3-3)
 3-1 伊藤 太朗、佐賀 春空
 七海 健太郎、宗像 颯翔
 3-2 泉 湧貴、木原 碧仁
 3-3 日野 遥介、吉田 輝明



盛り上がった吹奏楽部発表

■ 閉祭式では表彰式の後、実行委員とパソコン部が制作したメイキング映像が披露されました。教頭先生の講評があり、最後は各係の代表者が登壇しそれぞれの想いを述べました。準備・運営等にあたってくれた実行委員会の生徒のみんな、そのみんなを導いてくれた先生方、温かい応援をいただいた家庭の皆さん、苦楽を共にした大切な仲間達、そして、頑張った自分自身に大きな大きな拍手を!!



多彩な才能が発揮された有志発表



“友垣祭”を終えて…

文化祭実行委員長 伊藤竜太郎(3-1)

僕は、この友垣祭にとっても強い思いを持ちながら準備に臨んでいました。それは、一昨年は台風の影響で内容が縮小され、昨年はコロナウイルスの影響で合唱コンクールのみの開催でした。なので、友垣祭の全てを通して行ったことのある学年は一つもありませんでした。そして、今年はコロナウイルスの影響は多少あるものの、一から作り上げていきました。生徒会だけでなく先生方、実行委員全ての人が力を合わせて、最高の友垣祭にしようという思いで準備を進めました。また、僕の生徒会活動も友垣祭をもって終了となります。なので、1年生から行ってきた生徒会活動の全ての思いもせました。そして、本番当日、全てのプログラムが最高のものになりました。特に3年生が中心となって盛り上がり、それに続いて1・2年生がついてきて、全ての生徒が一つになって友垣祭を楽しんでいたと思います。その光景を見て、僕は生徒会役員をやってきて良かったと思い、感動しました。友垣祭が終わった今も「もう一度友垣祭をやりたいな」と時々思ってしまいます。この友垣祭の楽しさややりがいのバトンを3年生から1・2年生につなぐことができたとと思います。そして、これからの小原田中をさらにより良い学校にしていくための活力にもなったと思います。来年の友垣祭はコロナの影響もなくなり、今年とはまたひと味違ったものになるのではないのでしょうか。僕はそう「願」を込めたいと思います。



仲間

修学旅行、友垣祭という大きな行事を終えた3年生の学年集会【10/25(月)】の時に話した内容です。

「最高の仲間と、最高の舞台上、最高の相手と戦うことができた」とは、2012年開催のロンドン・オリンピックの時の女子サッカー“なでしこジャパン”澤穂希選手の言葉です。この言葉からは、『仲間』の尊さを感じることができます。真の『仲間』とはプラスの力を与え合うもの、一人では成し得ないことを可能にする力を与え合うものだと思います。そして、困ったり、苦しんだりしている時には、それを理解し守ってくれる存在です。自らがそうした人になる努力を続けることによって、真の『仲間』は自分の周りに着実に増えていくと思います。そして、真の『仲間』が、最高の『仲間』となるわけです。

人気アニメの『ONE PIECE』。好きな人もたくさんいると思います。このアニメの重要なキーワードのひとつになっているのも、『仲間』です。主人公のルフィは、どんなことがあっても『仲間』を見捨てず、何があっても信頼し、どんな強大な敵に対しても『仲間』を守るために全力で立ち向かっていきます。

社会学者の安田雪という人物が、『ルフィの仲間力』という著書の中で、『ONE PIECE』のルフィをモデルに、仲間から信頼される人になるための条件として、次の4つをあげています。

- 1、相手の姿・形に偏見を持たない。 相手を表面や外見で判断しないことです。
- 2、自分の弱さを隠さない。 自分の弱さを見せることには、大きな勇気を要します。それによって、相手につけ込まれて窮地に立たされることもあるし、そんなことはプライドが許さないという人もいます。しかし、「自分の弱さを認める強さ」を持っていれば、それによって仲間たちは「自分が助けなければ」という思いを強くするのです。
- 3、自らの旗を掲げる。 人が掲げた旗に乗っかるだけではなく、時には自分から旗を掲げることも大切であるということ。これは、自分のやりたいことや目標がはっきりしたら、それを口に出して他者に伝えてみることを指します。自分の意見や考えを人に伝えることができなければ、人は寄って来ません。
- 4、仲間のSOSには絶対に応える。 厄介なことには関わり合いたくないでしょうし、面倒くさく感じることもあるでしょう。しかしだからこそ、仲間が心から助けを求めている時に、絶対にそれに応えようとする人は、仲間からの信頼を勝ち取ることができるのです。

「人は人の生き方に出会い、感動し、自分の生き方を思う。感動は想像力となり、生きる力となる。生きる力はまた別の一人を感動させ、その連鎖が続いていく」

人生は出会いの連続です。人は多くの人と出会って、つながりをつくって豊かな人生を送っていく。百人いれば百の考えや感じ方があります。百の個性があります。それぞれ違う個性を持つ者同士が、力を合わせて一つのものを作り上げるという素晴らしい体験こそ、『仲間』を強く意識できる最高の場面なのかもしれません。

澤穂希のように、「最高の仲間」と言える『仲間』。『ONE PIECE』のルフィの仲間たちのように、信頼し合い、全力で互いを守っていける『仲間』。部活動の時、修学旅行や文化祭などの学校行事の時、『仲間』を意識することができたはず。そして、これから受験に立ち向かう時にも『仲間』の存在がきっと大きな力になるのではないのでしょうか。

学級、学年、学校などに…そんな『仲間』がいたなら、本当に素敵ですばらしいことだと思います。